



SUBARUのいいところマルわかり!

試乗で体感する、ココがスバルです

「いつまでも、どこまでも運転したくなる」とか「コーナーを狙い通りに曲ることができる」とかという言葉で表現されるSUBARUのクルマたち。その言葉の意味するところは、実際にハンドルを握ってクルマを走らせてみることで初めて実感していただけます。また、ご自身で運転しなくても助手席や後部座席に同乗するだけでその魅力の一端に触れることができます。そこで、全国のSUBARUのお店では、お客様にSUBARU車にご試乗いただくことをおすすめしています。今号は、初めて試乗される方も含めて、SUBARU車をより愉しんでいただき、安心と楽しさを追求したSUBARUならではのクルマづくりに触れていただくためのポイントを分かりやすくご紹介します。



03 試乗日当日の準備

当日は運転しやすい服装と靴で、運転免許証も忘れずに持参しましょう。



Q 持っていった方が
良いものはありますか？

A ラゲッジスペースを測るメジャーがあると重宝します。クルマの用途が決まっているようでしたらベビーカー、ゴルフバッグなど、実際に積載するものを持っていきましょう。またご高齢の方をお乗せするようでしたら、ご本人にもお越しいただき、安心して乗り降りできるよう、シートの高さやドアの開き角度を確認していただくことをおすすめします。

04 事前説明と試乗誓約書の記入

これから試乗するルートや注意点について説明を受けます。万が一、試乗中に事故を起こした際に保険を申請するために必要な試乗誓約書の記入を済ませたいよいよ試乗です。



05 試乗

運転前にドライビングポジションの調整を済ませて、いざスタート！助手席にセールスも同乗して、試乗ルートや操作系の使い方をご案内しますので、安心して運転に集中できます。



Q 試乗で何がわかるの？

A 実際に見て・乗って・感じることによってこのクルマのある生活をイメージしていただくことが最も大切です。そのサポートをするために、試乗中はクルマの説明以外にも、雑談や楽しい話を織りまぜ、ご家族やご友人とクルマで出かけたときをイメージしていただけるような雰囲気づくりを心掛けています。

セールスはクルマのトータルアドバイザー！クルマのことなら何でも相談を。

どんなクルマが自分に合うかわからないという方もお気軽にお店にいらしてください。お客様とお話しさせていただく中で、最新のクルマの機能や装備、モデルによってどのような違いがあるのかをご紹介しますので、お帰りの頃にはなんとなく「こんなクルマが欲しいかな」というイメージを持っていただけるはずです。私たちセールスはクルマのことについて気軽に相談できる便利屋です。わからないことがあれば、何でも聞いてください！



SUBARUのいいところマルわかり！

セールスに聞いた“試乗”のギモン

Guest Speaker 東京スバル本郷店 池田隼斗

「試乗で体感と言われても、クルマのことはあまりわからないし、運転にも自信がないので不安……」という方も多いのではないのでしょうか。そこでまず、「どうやって試乗したら良いのか？」や「運転がうまくなくても大丈夫なの？」「試乗して一体何がわかるの？」など、初めてクルマの販売店に行く人が抱きがちな疑問を現場のセールスに投げかけてみました。

01 WEBで試乗車を検索

SUBARUの試乗車検索ページで気になるクルマを探ることができます。「現在地から検索」機能を活用するとお近くのSUBARU販売店が表示されます。



試乗車検索はこちら！



Q 運転に自信がないので試乗車をドライブするのは怖いのですが……

A 運転に自信がないという方は、助手席に同乗いただくことも可能です。また、運転が苦手な方の場合、試乗前にお店の敷地内で行っているプリクラッシュブレーキ体験をおすすめしています。先にプリクラッシュブレーキを試してみることで、「ちゃんと止まるんだ」という安心感やクルマに乗ったときの感覚をつかんでいただけるので、緊張が和らぐと思います。

02 電話で試乗車を予約

試乗したいモデルが決まっている場合は、店舗に電話で問い合わせ、希望する日時や同行者の人数などを伝えましょう。



Q 試乗車に関してどれくらいリクエストできますか？

A ボディカラーや内装、メーカーオプション、ベースキット装着車であれば、可能な限りご要望にお応えできるよう調整しています。ご用意できる車種には限りがありますので、アクセサリパーツ装着車などは難しい場合がありますが、具体的なご要望があればぜひ伝えてください。

SUBARU
試乗投稿募集中！

最新のSUBARU車に試乗して気づいたことや感じたことをカートピアプラザ 試乗体感係までお寄せください。詳細はP23をご参照ください。皆様からの投稿お待ちしております！



03

見やすいのは何故だろう?



視認性、操作性に優れたメーター類 (SUBARU製の車両)



(写真は5代目インプレッサです)

SUBARU車は、運転中に瞬時に情報を確認しなくてはいけない表示系は、できるだけ視線を動かさずに確認できるよう上部にまとめ、その下にエアコンやナビ・オーディオの操作パネル類を配置しています。操作部はドライバーの肩の位置を支点に、シフトノブやステアリング、操作パネルのレイアウトを細かく検証しています。手が届きやすくて、近すぎると圧迫感につながる、手の届きやすさと快適な空間を両立するために、距離だけでなく、パネルの角度まで細かくチューニングしています。→詳しくは vol.62 SUBARU車のコックピットレイアウト(2019年4月号)

04

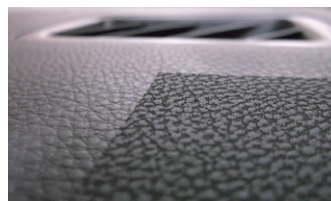
存在を消すインテリアデザイン



SUBARU車の居心地が良い理由 (SUBARU製の車両)

SUBARUが大事にしているのが、運転中に存在を主張しなくなる「無になるデザイン」です。これがしっかりとできたクルマは、運転していてどこか落ち着きや居心地の良さを感じる空間を持っています。中でも重視しているのが太陽光です。たとえば、空調の吹き出し口は、シルバーの塗色で囲むデザインを採用していますが、サイドウィンドウに映り込むと煩わしく感じます。これを防ぐために囲み部分は表面に丸みをつけて張りを持たせ、光を凝縮して反射する光を小さくしています。もう一点、内装材にも反射を抑える工夫をしています。写真は新たに開発した内装の表皮「しほ」を従来のものと比較したものです。「しほ」は意匠性に加えて特定の機能を持たせた素材表面の凹凸のことです。まったく同じ条件で光を反射させていますが、手前の新しい素材の方が反射が抑えられて黒く見えることがわかりたいだけだと思います。「しほ」断面の中にさらに細かいテク

スチャーを与えることで光をさまざまな方向に散らし、ドライバーの目に飛び込んでくる光を減らしています。これによりインストルメントパネル上部の光の反射が抑えられ、よりクリアで疲れにくい運転視界が得られます。SUBARU車に試乗したとき、「なんか居心地がいいな」と感じていただけたなら、「無になるデザイン」が効果を発揮しているのです。→詳しくは vol.70 SUBARU車の内装デザイン(2019年12月号)



内装に用いられている表皮のしほ。皮革の風合いを模した凹凸は一見すると従来のものと変わらないが、太陽光の下に出すと光の反射が異なるため、手前にある新採用の表皮の方が黒く見える。

05

見る角度によって印象が変わる



発見のある新型インプレッサのエクステリアデザイン (新型インプレッサ)

新型インプレッサでは「アクティブな気持ちを盛り上げる、より走りそうなデザイン」を目指し、細部までデザイン的な仕掛けを施しています。まず正面からフロントバンパーをご覧ください。グリル下の面が平面ではなく傾斜がついていることがわかりたいだけだと思います。これにより、左右方向に一貫する陰影をつくり、左右への拡がりを生み出しています。それを受け止めるのが左右端のフォグランプまわりの造形です。ここにも傾斜面を設け、伸びやかなイメージを創出しています。次に側面に回ってこのフォグランプまわりをご覧くださいと、今度は前後方向につながるシャープなラインを強調する効果を感じていただけるはずです。新型インプレッサは、このような取り組みを多数行っているため、インプレッサが置かれている背景や当たる光の種類



や角度の違いによって見え方が変わります。場所や時間を変えてさまざまなコンディションの下で眺めていただくと、「こんな風にも見えるんだ」という新しい発見を楽しんでいただけます。→詳しくは 2023年5月号特集 新型インプレッサ「FUNなデザイン」

SUBARUのいいところマルわかり!

ココ!



ココスバ的 10 ポイント試乗ガイド

「ココがSUBARUです!」という、スバルらしいポイントを開発エンジニアやデザイナーが紹介するカートピアの連載企画「ココスバ」。今回はこれまでに掲載した記事の中から、開発者が「ぜひお店でお客様に感じていただきたい」と話してくれたポイントをピックアップしてまとめてみました。

お店でチェック!

「ココスバ試乗」チェックポイント【試乗前編】

01

運転席に座って



安全運転の基本・ドライビングポジション

どんな体格の人にも最適なドライビングポジションを提供 (SUBARU製の車両)

SUBARU車の場合、アクセル/ブレーキペダルは、運転席に座った時に自然に足を前に出した位置に配置しているのが、進行方向に正対したまっすぐな姿勢で運転できます。アクセルペダルはオルガンのペダルのような形式ではなく、吊り下げ式を採用しています。吊り下げ式はかかとを置く場所の自由度が高く、さまざまなドライビングポジションで踏みやすさを提供できるからです。ステアリングは上下・前後に動かせるように調整幅を大きく設定しました。同じく高さや前後位置など調整幅の大きなシート位置と合わせて調整することで、小柄な方から大柄な方まで快適なポジションで操作していただけます。

ドライバーが自然な姿勢で運転席に座って運転操作できるのはSUBARU車の特長の一つです。ぜひご自身のドライビングポジションを設定して、その感覚を体感してください。→詳しくは vol.62 SUBARU車のコックピットレイアウト(2019年4月号)

アクセルペダルの構造



吊り下げ式



オルガン式

02

太さが変わる?不思議なピラー



優れた直接視界を確保するための工夫 (SUBARU製の車両)

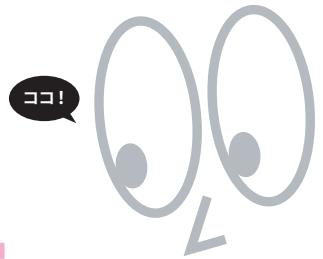
同じピラーでも見る位置を変えると太さが違って見えます。



インプレッサのCピラー。写真Aはドライバーの視点から見た形状。写真Bは同じピラーを後席のヘッドレストあたりから見たもの。(写真は5代目インプレッサです)

まず後部座席に座り、後席のヘッドレストのあたりからリヤのクォーターピラーをチェックしてください。幅と厚みがあって頑丈な形状になっていることがわかります。次に運転席に座った状態で後席を振り返って同じピラーを見ると、さきほどと比べて細く見えることに気づきます。これは、ピラーの断面形状を工夫することで、衝突安全対策に必要な太さを確保しながら、安全確認のために必要なドライバーの視界をしっかりと確保するための取り組みです。あらゆるピラーが同じコンセプトで設計されており、運転席から見ると全方向に優れた直接視界を提供しています。

→詳しくは vol.50 インプレッサの後方～側方視界(2018年04月号)

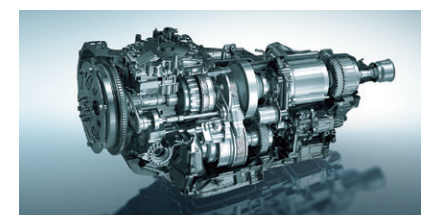


08

走行中に体感 e-BOXER車の質感 (クロストレック/新型インプレッサ)

e-BOXERの開発で最もこだわっているのが自然なアクセルやブレーキフィーリングです。例えば、モーターの加速とエンジンの加速がシームレスに違和感なくつながるようにすること。また、同じ速度域からの加速でも、このまま加速を続けそうならエンジンで、前のクルマに追いつくために少しだけ加速した時にはモーターで加速、というようにアクセルの踏み込み量や車速から状況判断してドライバーの意図に沿った加速をします。また、クロストレック、新型インプレッサのe-BOXER搭載モデルではモーターのみの走行からエンジン走行に移行する際にエン

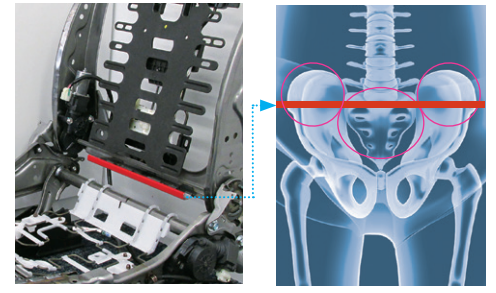
ジンが再始動するときの振動を減らしました。どんな場面でも違和感のない滑らかな走りをお楽しみいただけます。
→詳しくは vol.109 進化したe-BOXERのトランスミッション(2023年5月号)



09

運転席・助手席に座って体感 運転中にしっかりと保持してくれるシート (クロストレック/新型インプレッサ)

クロストレック、新型インプレッサの前席に座っていただくと、腰がしっかりと固定される感覚にお気づきいただけると思います。今回、シート背もたれの基部、ヒンジシャフトの下部に骨盤を支える構造物(ブラケット)を取り付けたからです。これにより、従来のシートと比べると走行時に発生する左右の揺れや回転方向のロールは4割近く小さくなり、疲れや酔いの原因となる頭部の揺れを抑えることができます。また、腰が安定してコーナリング時の上体の移動量が減るため、運転しやすくなります。試乗でカーブを曲がる時には、身体がぶれずしっかりと安定している感覚を味わってみましょう。



写真の赤いパーツが新たに設置したブラケット。右写真のように腸骨(骨盤下部左右の骨)と仙骨(脊椎下部の三角形の骨)をしっかりと支えます。

→詳しくは vol.108 CROSSSTREKの新開発シート(2023年3月号)

10

助手席/後席に座って体感 緊張せず、安心して乗れる (クロストレック/新型インプレッサ)



クルマのコントロール性が良くなっているので、急な動き、無駄な動きが減少し、同乗者に不安や緊張を感じさせません。コーナリング時や車線変更時などもギクシャクせずスムーズなクルマの動きが感じられるはず。また路面の凹凸を乗り越えるようなシーンでは、突き上げの処理の仕方や車室内の静かさに注意してみてください。疲れやクルマ酔いの原因となる不快な振動や揺れがなく、突き上げの衝撃も一度でスッと収束するのがおわかりいただけます。

→詳しくは 2023年5月号特集 新型インプレッサ「FUNな走り」

+αでここもチェック!

プリクラッシュブレーキ体感試乗→SUBARUのお店ならではの貴重な体験を、ぜひ!

SUBARUのお店では運転支援システムアイサイトのプリクラッシュブレーキをご体感いただくことができます。他では実際にクルマに乗って体験できる機会はなかなかありませんので、お店を訪ねた時にはぜひトライしてみてください。(一部対応していない店舗もありますので、事前にご確認ください)



試乗してチェック!

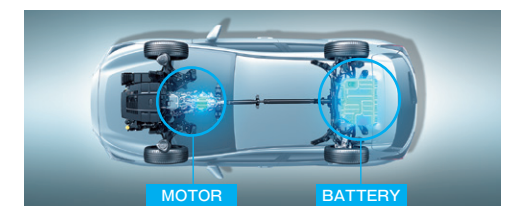
「ココスバ試乗」チェックポイント【試乗編】

06

走り始めに体感 走り出しのアクセルレスポンスの良さ (e-BOXER搭載車)

e-BOXERの大きな特長は、軽自動車1台分に相当するトルクを発揮するモーターが軽快な加速をアシストしてくれる点です。エンジン車はアクセルを踏んでから加速するまでに少しタイムラグがありますが、e-BOXER搭載車はそこをモーターが補います。アクセルを踏めばタイムラグなく加速できるので思い通りに気持ちよく運転できます。幹線道路への合流や郊外のワインディングでカーブから出るときなど、30~40km/hくらいからの加速がとても気持ち良いので、ぜひ試乗の際に感じてみてください。

→詳しくは vol.56 新型フォレスターのe-BOXER(2018年10月号)



片手で持てるくらいの大きさのモーターが、軽自動車1台分に相当するトルクを発揮する。

07

コーナリングや駐車時に体感 一格上の操舵質感 (クロストレック/新型インプレッサ)

クロストレック、新型インプレッサのステアリングで目指したのは「ドライバーに路面の状況をしっかり伝えること」です。SUBARUの強みは、スパルグローバルプラットフォームやシンメトリカルAWDによって得られる高い操縦安定性です

が、より安全に運転していただくためには、逐一変わる路面状況をドライバーに伝えることが大切です。そのためには、ハンドルから伝わってくる路面からのインフォメーションを正確にドライバーに伝えるステアリング制御が必要です。今回、クロストレック、新型インプレッサのステアリングには、欧州のハイグレード車に採用例の多い2ピニオンEPS(電動パワーステアリング)を採用し、ワンランク上の質感を達成するための新しい制御を導入しています。わかりやすいところでは、駐車時など低速でステアリングがロックするまで切るような場面。最後にガツン!と止まるクルマが多いですが、その当たりを柔らかくして、クラスを超える操舵質感を実現しています。質感の高さに加え、SUBARUが実現したい「安心と愉しさ」を感じられるステアリングフィールをぜひ味わってみてください。

→詳しくは vol.106 CROSSSTREKの2ピニオン電動パワーステアリング(2023年1月号)



2ピニオン電動パワーステアリング (写真は左ハンドル仕様のものを車両前方方向から見た状態)

